

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月

美作大学生活科学部

食物学科

社会福祉学科

美作大学大学院

生活科学研究科

目次

I	教職課程の現況及び特色	- 1 -
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	- 3 -
__	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	- 3 -
__	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	- 6 -
__	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	- 10 -
III.	総合評価	- 13 -
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	- 14 -
V	現況基礎データ一覧	- 15 -

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 美作大学生活科学部食物学科および社会福祉学科

美作大学大学院人間発達学研究科

(2) 所在地：岡山県津山市北園町 50

(3) 学生数及び教員数

(令和 年 5 月 1 日現在)

学生数： 食物学科 教職課程履修 10 名／学科全体 361 名

社会福祉学科 教職課程履修 2 名／学科全体 230 名

生活科学研究科 教職課程履修 0 名／学科全体 0 名

教員数： 食物学科 教職課程科目担当 33 名／学科全体 35 名

社会福祉学科 教職課程科目担当 22 名／学科全体 27 名

生活科学研究科 教職課程科目担当 11 名／研究科全体 12 名

2 特色

食物学科では、昭和 42 年に中学校・高等学校教諭一種免許の家庭科教員および栄養教諭一種の教員養成課程を置いた。その後、平成 17 年に大学院生活科学研究科が設置され、中学校・高等学校教諭（家庭）および栄養教諭専修の課程認定を受けた。社会福祉学科では、平成 12 年に高等学校教諭一種免許の福祉科教員の課程を置いた。

食物学科では、保健、医療、福祉及び教育分野の栄養サポートや食育を担い、食のエキスパートとして食生活の改善を通して地域社会の人々の生活の質の向上に貢献できる専門的職業人の養成という学科の教育目標にもとづいて管理栄養士の養成を主に行っている。また、この学科の教育目標にもとづいて、教員養成の目標を以下のように掲げている。学校における児童・生徒の食育及び給食管理を担うことのできる専門的知識や技術を持った栄養教諭の養成をめざす。食に関する高い専門性を有し、調理師養成教育にも貢献しうる力量を持った高等学校及び中学校の家庭科教員の養成をめざす。

社会福祉学科では、少子・高齢化が進むわが国の社会的要請に応え、誰もが住み慣れたまちや地域でのいきいきとした生活を実現するために諸課題の解決を目指し、地域社会づくりに貢献する社会福祉士の養成という学科の教育目標にもとづいて、教員養成の目標を以下のように掲げている。専門的な知識や技術に加え、教育現場で求められるさまざまな実践的能力、教育者としての資質・能力・指導力を持つ福祉科教員の養成をめざす。

生活科学研究科では、生活科学分野において広い視野に立った清深な学識を身に付けると共に、食健康科学・機能食材開発及び栄養管理実践の各分野における教育研究におい

て、地域社会の人々の健康の維持・増進を通じ、**QOL(生活の質)**の向上に貢献できる高度な専門的知見と応用的・実践的技能の修得を目標とするという研究科の教育目標にもとづいて、教員養成の目標を以下のように掲げている。食品と健康の関係の教育研究をベースに、健康の維持・増進へ向けた教育研究を進め、食の安全・食品開発や衛生に係る専門職、病院や福祉施設等における栄養指導の専門職、更には専修免許を有する家庭科教諭・栄養教諭等の高度な専門的職業人の養成をめざす。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教員養成の目的・目標をディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえて設定し、育成をめざす教師像である「地域社会に貢献できる教師」とともに教職課程学生、院生に周知している（資料1-1-1、資料1-1-2）。こうした目的・目標は、毎年見直しが行われ、食物学科、社会福祉学科では、学科会において教職員に共有される（資料1-1-3、資料1-1-4）。生活科学研究科では専修免許希望者がいる年度に研究科委員会で議題とされ、教職員に共有される。とりわけ年度末の学科会においては、上述の目的・目標に沿った次年度の計画が協議、立案される（資料1-1-3、資料1-1-5）。そして、ディプロマ・ポリシーをふまえた教職課程教育を遂行するために、食物学科では、教職課程「履修カルテ」を作成することにより、学修成果が把握できるよう、ラーニング・アウトカムの可視化をはかっている（資料1-1-6、資料1-1-7）。また、社会福祉学科では「教職実践演習」において学習成果の振り返りを行っている（資料1-1-8）。

〔長所・特色〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、育成をめざす教師像の実現に向けて、関係教職員が教員養成の目的・目標を共有している（資料1-1-1、資料1-1-2）。そして、教職課程学生、院生はもとより、本学学生募集広報室、大学広報室とも協働し、高等学校や大学受験前の高校生、大学院入院志望者にも周知し、教職への強い意志をもった入学者、入院者の獲得に努めている（資料1-1-9、資料1-1-10）。

〔取り組み上の課題〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教職員、教職課程学生、院生に対し、教職課程教育の目的・目標の周知に努めている。しかし、その理解度については検証できていない。これは、非常勤講師についても同様である。今後は、教員養成の目的・目標を達成するため、非常勤講師との意見交換会などを開催し、その周知、理解に努めていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：教員養成の目的・目標

<https://mimasaka.jp/about/disclosur/training/>

- ・資料 1-1-2 : 大学院について

<https://mimasaka.jp/undergraduate/graduate/>

- ・資料 1-1-3 : 食物学科会議_第 6 回 (11 月) 議事録
- ・資料 1-1-4 : 社会福祉学科 2022 年_5 月議事録
- ・資料 1-1-5 : 社会福祉学科 2022 年_12 月議事録
- ・資料 1-1-6 : 教職履修カルテ (栄養)
- ・資料 1-1-7 : 教職履修カルテ (家庭)
- ・資料 1-1-8 : 教職実践演習 (高) シラバス

シラバスは、シラバス検索システム (<https://mimasaka.cloud-syllabus.com/>) で閲覧可能。以下同様。

- ・資料 1-1-9 : 進学説明会要項
- ・資料 1-1-10 : 大学院の案内・募集要項 p.21 「希望する指導教員との面談」
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科は、教職課程認定基準をふまえ、研究者教員と実務家教員および事務職員との協働体制を構築し、教職課程を運営している（資料 1-2-1、資料 1-2-2、資料 1-2-3）。そして、学科会において、教職課程の運営などに関する意見や教職課程学生に関する情報を交換している（資料 1-2-4）。生活科学研究科では、専修免許希望者がいる年度に研究科委員会の議題になり、院生一人一人の履修、研究状況が報告され、必要に応じた意見交換や対応協議を行っている。また、学科長、研究科長、各コース長、実習担当者が教職課程センター委員会にも出席し、全学的な教職課程の運営に関する動向の把握や学科、研究科間の教職課程の運営に関する情報を共有している（資料 1-2-5）。そして、こうした教職課程の組織、運営に関する諸情報は、本学 HP 上において発信されている（資料 1-2-6）。

〔長所・特色〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教職課程学生のニーズに応じた教職課程を編成している。たとえば学校教育における ICT 機器の活用が求められる昨今、本学学修・学術情報センターとの連携のもと、各教室において電子黒板、PC、タブレットなどを設置し、各教科教育法や教職実践演習などの講義、演習などに際し、ICT 機器 を活用した模擬授業、教材研究を可能としている（資料 1-2-7、資料 1-2-8）。

また、食物学科、社会福祉学科は、教育実習がより効果的なものとなるよう、教職員が

協働して、実習生全員への訪問指導、もしくは電話、メールでの指導を行っている（資料1-2-9、社会福祉学科は昨年度の実習生がいなかったため資料をあげていない）。訪問指導は、基本的に実習の最終週に行われ、実習校への挨拶、お礼、および実習生の授業その他の観察と指導を行っている。なお、学生学習室において教科書、過去の教育実習に関する報告集などを開架するほか、図書館においても、教職関連資料を閲覧できるようにしている（資料1-2-10）。

〔取り組み上の課題〕

本学は、授業評価アンケートやFD、SDに取り組んでおり、教職課程教職員にとどまらない全学的な教職員の資質、能力の向上をめざしている（資料1-2-11、資料1-2-12）。食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科も、こうした取り組みの成果を生かし、教職課程センターや他学科、他研究科などとの連携を深め、教職養成組織としてより高い組織力、運営力を形成したい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：履修要項 pp35-41
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigaku2022.pdf>
- ・資料1-2-2：実務経験がある教員の一覧（食物学科）
https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/jitumukyoin/1_2022_shokumotu.pdf
- ・資料1-2-3：実務経験がある教員の一覧（社会福祉学科）
https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/jitumukyoin/3_2022_fukushi.pdf
- ・資料1-2-4：食物学科会議_第8回（1月）議事録
- ・資料1-2-5：2022年度第1回教職課程センター委員会議事録
- ・資料1-2-6：「情報公開」<https://mimasaka.jp/about/disclosur/>
- ・資料1-2-7：「家庭科教育法Ⅱ」シラバス（食物学科）
- ・資料1-2-8：「福祉科教育法」シラバス（社会福祉学科）
- ・資料1-2-9：教育実習巡回記録（食物学科）
- ・資料1-2-10：教職関連図書館目録
- ・資料1-2-11：学生による授業評価アンケート
<https://mimasaka.jp/about/disclosur/other/>
- ・資料1-2-12：令和4年6月美作大学 自己点検・評価報告書 p.57-60、
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/self-assessment-report-2022.pdf>

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教職課程で学ぶにふさわしい学生像を、アドミッション・ポリシーをふまえて内外に周知し、パンフレットによって学生募集に取り組んでいる（資料 2-1-1、資料 2-1-2）。このパンフレットの方針は、本学職員会議などにおいてもアナウンスされ、学科、研究科内にとどまらず、全学的な共通理解が促されている。また、オープンキャンパスなどにおいてはもちろん、本学学生募集広報室、大学広報室をはじめ、就職支援室とも共有され、高等学校や大学受験前の高校生、大学院入院志望者にもアナウンスされている。これにより、この方針を理解した高校生などが、入学選考に臨んでいる（資料 2-1-3、資料 1-2-4）。そして、いずれも、ディプロマ・ポリシーによりながら、適切な規模の教職課程学生を受け入れている（資料 2-1-5）。

また、食物学科、社会福祉学科は、カリキュラム・ポリシーをふまえ、本学 HP 上やシラバスにおいて「食物学科カリキュラムツリー」、「社会福祉学科カリキュラムツリー」を公開している（資料 2-1-6、資料 2-1-7）。これにより、学生が管理栄養士や社会福祉士養成課程において必要な科目履修の確認をするとともに、学科教育における教職課程科目の位置づけやこれらとの関係性を把握したうえで、教職課程を履修することができるようにしている。そして、教職課程の履修指導に際しては、改めてアドミッション・ポリシーの周知に努めるとともに、「教育実習規程」に基づいて、每期開始時におけるクラス担任との面談をとおり、教職課程学生の適性や資質に応じた教職指導に取り組んでいる（資料 2-1-8、資料 2-1-9）。こうした取り組みは、生活科学研究科においても同様であるが、これまで専修免許取得希望者がいなかったため、まだ実績はない。

〔長所・特色〕

食物学科、社会福祉学科は、各学科教職員が共同して、年 6 回にわたるオープンキャンパス、出張オープンキャンパス、オンラインオープンキャンパス、加えて高校訪問や出前授業において、学科教職課程に関するアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーなどを説明することにより、教職課程学生の確保に努めている（資料 2-1-10）。生活科学研究科は、研究科専任教員が学科教員を兼担していることから、学部からの入院希望者は、研究科教員と事前相談をすることが可能となっている（免許取得希望者がいなかったため、まだ実績はない）。また、本学以外からの入院希望者にも、願書提出前に研究科長、必要と判断される場合、指導教員候補者との面談も実施している（資料 2-1-11）。

〔取り組み上の課題〕

食物学科、社会福祉学科は、教育実習履修のための履修基準を設けている（資料2-1-8、資料2-1-9）。そのため、成績不振などの理由により、この基準に抵触し、教育実習を履修できない教職課程学生もいる。そして、これをきっかけに、両学科ともに一般学科であることから、教職を諦めようとする学生もしばしば見受けられる。そのため、両学科は、こうした学生に対しても、前述した「履修カルテ」などを活用した教職指導を継続することにより、教職への意欲を維持、向上させる必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料2-1-1 : 2023年度(令和5年度)大学案内 pp.23-32「食の分野」、pp.69-78
「福祉の分野」
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-3&cs=1&FL=0
- ・ 資料2-1-2 : 2022年度 大学院の案内・募集要項
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf
- ・ 資料2-1-3 : 2023年度学生募集要項
<https://mimasaka.jp/file/admission/student-recruitment-guidelines-2023.pdf?v=20220928>
- ・ 資料2-1-4 : 2023年度大学院入試概要
<https://mimasaka.jp/admission/graduate/overview/>
- ・ 資料2-1-5 : 学生状況
<https://mimasaka.jp/about/disclosur/student-situation/>
- ・ 資料2-1-6 : 食物学科カリキュラムツリー
<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-food-science-2023.pdf>
- ・ 資料2-1-7 : 社会福祉学科カリキュラムツリー
<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-social-welfare-2023.pdf>
- ・ 資料2-1-8 : 食物学科「教職科目に関する履修規程」
- ・ 資料2-1-9 : 社会福祉学科教育実習規程及び細則
- ・ 資料2-1-10 : 2023年度(令和5年度)大学案内 pp.111-114「オープンキャンパス」
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-3&cs=1&FL=0
- ・ 資料2-1-11 : 2022年度大学院の案内・募集要項 p.21「希望する指導教員との

面談」

https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科は、クラス担任制を導入し、每期開始時において個人面談を実施している（資料2-2-1）。これにより、教職課程学生の意欲や適性について、個々に詳細に把握するとともに、教員採用試験に向けての準備や、将来教職に就く者として各自が課題を見出し、改善に努められるよう支援している。そして、面談より得た情報を本学就職支援室とも共有し、教職に就くための各種情報の提供など、キャリア支援を行っている（資料2-2-2）。また、全学的な就職先開拓訪問の一環として、食物学科、社会福祉学科教職員も、在学生の就職希望地にある学校や教育委員会などを訪問し、教員採用試験や教職に就いた卒業生の動向を把握している（資料2-2-3）。

また、両学科は、本学就職支援室と協働し、毎年就職懇談会を開催している（資料2-2-4）。そこでは、教職への就職が決定した上級生から下級生に対する講話が行われる。これに加えて、食物学科では、教育実習を終えた上級生が教育実習の内容や注意点、準備事項の確認、現場での実態を報告する教育実習報告会も開催している（資料2-2-5、資料2-2-6）。これにより、上級生から下級生に向けて教育実習に関するアドバイスも行われている。なお、3年次春季休業から4年次教員採用試験終了まで、教員採用試験対策講座を実施し、採用試験合格に向けての取り組みを実践している点も、両学科における教職へのキャリア支援として特筆すべき点である（資料2-2-7）。こうした取り組みにより、両学科は、教職志願者や教員採用試験合格者の増加をめざしている。

なお、生活科学研究科は、就職懇談会は実施せず、指導教員や研究科長との個人相談による就職指導を行う体制になっている。

〔長所・特色〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科ともに教職課程学生、院生が少人数のため、教員試験対策講座のように教職員学生間、学生間、院生間での協力体制が整っており、教育実習や教員採用試験に関する情報共有がスムーズに行われている。また、教職課程学生の教職への意欲が高く、とくに教職課程学生は、管理栄養士や社会福祉士国家試験受験に向けた4年次の限られた時間のなかでも、国家試験勉強と教員採用試験勉強の両立に取り組んでいる。

〔取り組み上の課題〕

前出したように食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科における教職課程学生、院生は少数であることから、指導体制を整えやすいなどのメリットがある一方で、デメリットもある。具体的には教職に関する多様な価値観をもつ人々との交流の機会が乏しいことである。そこで、こうしたデメリットを解消するため、教職課程学生、院生に対し、学科内、研究科内にとどまらず、すでに教職に就いている卒業生や様々な地域人材との交流をとおり、将来教職に就く者としての幅広い視野を身につける機会を設ける必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2 - 2 - 1 : 学生面談依頼文
- ・ 資料 2 - 2 - 2 : 就職支援室★2022年学科指導一覧
- ・ 資料 2 - 2 - 3 : 大学案内 p.30、p76「主な就職先」
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-3&cs=1&FL=0
- ・ 資料 2 - 2 - 4 : 就職懇談会次第
- ・ 資料 2 - 2 - 5 : 教育実習報告会資料①
- ・ 資料 2 - 2 - 6 : 教育実習報告会資料②
- ・ 資料 2 - 2 - 7 : 大学案内 p.28、76「教員採用試験対策」
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-3&cs=1&FL=0

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、それぞれの教育目的・目標をふまえ、カリキュラム・ポリシーを設定している（資料 3-1-1、資料 3-1-2、資料 3-1-3）。なかでも食物学科において管理栄養士資格をめざして学ぶ学生のうち、あるいは社会福祉学科において社会福祉士資格をめざして学ぶ学生のうち、教員免許の取得を希望する者が各教員免許状を取得することができるように、教職課程科目相互や他科目などとの系統性を確保しながら、教職課程コア・カリキュラムに沿った教職課程カリキュラムを編成している（資料 3-1-4、資料 3-1-5）。なお、いずれも、教職課程科目に関する単位を年間取得単位数の上限であるキャップ制の対象とはしていない。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、こうしたカリキュラム編成により、ICT 機器を活用して情報活用能力を育てるとともに、アクティブ・ラーニングやグループワークにより課題発見力や課題解決力を育て、今日における学校課題に対応できる教員の養成に努めている（資料 3-1-6、資料 3-1-7、資料 3-1-8）。その際、シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を明示している。また、食物学科、社会福祉学科は、教育実習の履修に際して履修基準を設け、教職課程の総仕上げの科目である教職実践演習において「履修カルテ」を活用しながら、教職課程学生の学修状況に応じた指導を行っている。

〔長所・特色〕

食物学科、社会福祉学科は、教員免許状取得希望者が少数であることから、しばしば合同の教職課程科目を開講している。それにより、とくに教科教育法や教職実践演習において、管理栄養士資格取得をめざして学ぶ学生の視点と社会福祉士資格取得をめざして学ぶ学生の視点との相乗効果が発揮され、「高齢者、障がい者等生活に配慮が必要な者への理解と、食の意義や支援方法」のような広い視野をもった授業展開が可能となっている。

〔取り組み上の課題〕

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科における教職課程学生は、少数にとどまっている。そのため、いずれも、学科「縦割り」の教員養成ではなく、教職課程センターをとおした全学的な、あるいは他学科、研究科との連携も見据えたうえで、より効果的な教職課程カリキュラムを編成、実施していくことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：食物学科カリキュラム・ポリシー

<https://mimasaka.jp/undergraduate/food-field/food-science/policy/>

- ・資料3-1-2：社会福祉学科カリキュラム・ポリシー

<https://mimasaka.jp/undergraduate/welfare-field/social-welfare/policy/>

- ・資料3-1-3：大学院の目的、教育目標、人材養成の目的

<https://mimasaka.jp/undergraduate/graduate/>

- ・資料3-1-4：食物学科カリキュラムツリー

<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-food-science-2023.pdf>

- ・資料3-1-5：社会福祉学科カリキュラム

<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-social-welfare-2023.pdf>

- ・資料3-1-6：「教職実践演習（中・高）」シラバス

- ・資料3-1-7：「教職実践演習（栄養教諭）」シラバス

- ・資料3-1-8：「教職実践演習（高）」シラバス

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

食物学科、社会福祉学科は、免許取得希望種別に応じた実践的指導力を高める機会を設けている。食物学科は、食育の一環として、近隣の町と連携して「農業体験ボランティア」を実施している（資料3-2-1）。また、中学校教諭免許状取得希望者に対しては、介護等体験をとおして、県内の福祉施設、近隣の特別支援学校、津山市教育委員会の協力のもと、大学周辺の市立小学校および中学校支援学級における体験活動の機会を設けている（資料3-2-2）。一方、社会福祉学科は、里親・里子支援サークル、3世代交流拠点「城東じ・ば・子（じいちゃん・ばあちゃん・子どもたちみんな）のおうち」、地域に障害理解を広げる「美作福祉部隊リカイヒロメタインジャー」、児童虐待防止の啓発を行う「オレンジリング」、子ども食堂や児童福祉施設における学習支援ボランティアなどの体験活動の機会を設けている（資料3-2-3）。

そして、食物学科、社会福祉学科は、これら様々な体験活動に際して、事前、事後オリエンテーションを実施し、教職課程学生に省察の機会を提供している（資料3-2-4、資料3-2-5）。こうした活動をとおし、いずれも、地域課題に働きかける実践力を養いつている。そして、その成果をたとえば「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」の探究課題の解決に向けて力を発揮できるような指導を行っている（資料3-2-6、資料3-2-7）。

なお、生活科学研究科は、これまでの実績はないものの、新卒院生が講師、非常勤講師

として教育現場での経験を積むことができるように、柔軟な時間割編成を可能としている（資料3-2-8）。

〔長所・特色〕

岡山県北において教職課程を有する大学は、本学のみである。そこで、食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、こうした「地の利」を生かし、教育委員会や校園長会、保育所、幼稚園、学校、福祉施設などの協力のもと、さまざまな体験活動、現場に係る修士論文研究、特定課題研究などをおし、教職課程学生、院生が地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新事情を学ぶ機会を設けている（資料3-2-9、資料3-2-10、資料3-2-11）。

〔取り組み上の課題〕

近年のコロナ禍に際しては、体験活動はもとより、教育実習の実施も困難な場合もあった。そのため、学科、研究科レベルにとどまらず、本学教職課程センターが近隣教育委員会、さらには体験活動校や教育実習校との連携体制をより強固なものとし、地域社会と協働した教職課程学生の実践的指導力の育成に努めていくことが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料3-2-1：地域との連携
<https://mimasaka.jp/undergraduate/food-field/food-science/point/>
- ・ 資料3-2-2：介護等体験認定審査用レポートについて
- ・ 資料3-2-3：美作大学流体験教育
<https://mimasaka.jp/undergraduate/welfare-field/social-welfare/point/>
- ・ 資料3-2-4：「ボランティア実習」シラバス（食物学科）
- ・ 資料3-2-5：「ボランティア実習」シラバス（社会福祉学科）
- ・ 資料3-2-6：「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」シラバス（食物学科）
- ・ 資料3-2-7：「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」シラバス（社会福祉学科）
- ・ 資料3-2-8：2022年度 大学院の案内・募集要項
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf
- ・ 資料3-2-9：「インターンシップ実習」シラバス（食物学科）
- ・ 資料3-2-10：「インターンシップ実習」シラバス（社会福祉学科）
- ・ 資料3-2-11：履修要項 p.34「美作大学大学院インターンシップ規程」
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigakuinn2022.pdf>

Ⅲ. 総合評価

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教職員、教職課程学生、院生に対し、教職課程教育の目的・目標の周知に努めている。しかし、その理解度については検証できていない。今後は、教職員の共通理解を達成するため、非常勤講師を含めた意見交換会などによって共通理解を徹底したい。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、教職課程学生のニーズに応じた設備の設置によって ICT 機器を活用した模擬授業、教材研究を可能としている。今後は、教職課程センターや他学科、他研究科などとの連携を深め、教職養成組織としてより高い組織力、運営力を形成したい。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、適切な規模の教職課程学生を受け入れている。教職課程の履修指導に際しては、「履修カルテ」を活用し、クラス担任が学生の適性や資質に応じた指導に取り組んでいる。しかし、教育実習履修基準に抵触し、教育実習を履修できない学生もいる。このような学生に対して、各学科、研究科教職員は「履修カルテ」などを活用した教職指導を継続して行っており、教職への意欲を維持、向上に貢献している。今後も「履修カルテ」等を活用した指導を継続して行っていきたい。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は就職支援室と協力し、教職に就くための各種情報の提供など、キャリア支援を行っている。教育実習を経験した上級生による報告会が行われ、下級生への教育実習に関するアドバイスが行われており、教育実習への意欲の向上に貢献している。また、教員採用試験対策講座を実施し、採用試験合格に向けての取り組みを実践している。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科における教職課程学生、院生は少数であることから、教職員からのサポートが得られやすく、教職員学生間、学生間、院生間での協力体制が整っている。そのため、学生、院生の教職への意欲向上につながっている。一方で、教職に関する多様な価値観をもつ人々との交流の機会が乏しくなるので、教職に就いている卒業生や様々な地域人材との交流をとおり、将来教職に就く者としての幅広い視野を身につける機会を設ける必要がある。

食物学科、社会福祉学科および生活科学研究科は、ICT 機器を活用して情報活用能力を育てるなど、今日における学校課題に対応したカリキュラム編成をしている。

食物学科、社会福祉学科は、合同の教職課程科目を開講している。今後は、学科「縦割り」の教員養成ではなく、全学的な連携による教職課程カリキュラムを編成、実施することにより、効果的な教員の育成をはかっていく必要がある。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程センターは、令和4年6月に学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを教職課程センター委員会において決定した。その後、教職課程センター委員会において、自己点検評価の実施方針・実施手順を決定した。自己点検評価は、教職課程センター委員会が行い、目標は教職課程の現状を把握・認識した上で自己評価を行うこととする。その実施期間は令和4年度とし、対象とする領域・事項は「全国私立大学教職課程協会」の手引きを参照する。各学科に原稿の作成と資料の収集を依頼し、年度末までに報告書を作成した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名	学校法人 美作学園				
大学・学部名	美作大学				
学科・コース名（必要な場合）	食物学科				
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数	83				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	76				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	10				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	6				
④のうち、正規採用者数	3				
④のうち、臨時的任用者数	3				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	6	5	4	2	6
相談員・支援員など専門職員数					

法人名	学校法人 美作学園				
大学・学部名	美作大学				
学科・コース名（必要な場合）	社会福祉学科				
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数	42				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	40				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	2				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	2				
④のうち、正規採用者数	0				
④のうち、臨時的任用者数	2				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	8	5	1	1	
相談員・支援員など専門職員数					

法人名	学校法人 美作学園				
大学・学部名	美作大学大学院				
学科・コース名（必要な場合）	生活科学研究科				
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数	0				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	0				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	0				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	0				
④のうち、正規採用者数	0				
④のうち、臨時的任用者数	0				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	7	3	1	0	
相談員・支援員など専門職員数					